

科目名	日本文化論特講Ⅱ	担当者	ハセガワ マサエ 長谷川 正江	期間	通年	単位数	4
-----	----------	-----	--------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>本講座は、江戸時代における大衆文化の形成過程とその今日的意義を理解し得る知識・態度・技能の習得により、以下の能力を身につけることを目的とする。</p> <p>天皇家の勅版、将軍家の官版に発した出版が、次第に私家版から民間の出版業者へとその中心を移し、和漢の古典籍の刊行に始まり仮名草子、浮世草子、俳諧、草双紙等の新作の文芸書、正本や絵入狂言本等の演劇関係書、名所・遊里案内書や遊女評判記、役者評判記等の遊興のガイドブック、絵本・浮世絵等の美術、重宝記や節用集等の実用書といった世界に類例を見ない多種多彩な刊行物を把握し、現代のサブカルチャーに繋がる文化の大衆化路線を視野に、江戸時代のマスコミ業界の実態を理解する。</p>		
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】</p> <ul style="list-style-type: none"> 江戸時代における大衆文化の形成過程とその今日的意義を理解し得る能力(知識・態度・技能)を習得する。 <p>【行動目標 (SB0s)】</p> <ul style="list-style-type: none"> 教員・各種メディア関係者・博物館学芸員・図書館司書等の勤務において、日本文化の特徴を外部に発信できる。 日本文化の特徴を日本人のみならず、外国人にも教授できる。 		
学修方略 (方法)	<p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <ul style="list-style-type: none"> manaba folio を使ったインタラクティブな添削指導を受ける。 manaba folio の掲示板機能を利用して、受講者同士で課題図書に関する疑問点の質疑応答・意見交換を行う。 manaba folio の掲示板機能を利用して、受講者同士で課題図書に関する情報交換を行う。 <p>【学修方略 (LS) と学習時間】</p> <ul style="list-style-type: none"> 図書館やデータベースを利用して、参考文献を調査し、レポートを作成する。 レポート1課題につき、完成までに最低45時間の学修時間を要する。 <p>1) 教材の学修：20時間 2) レポート執筆：10時間 3) レポート推敲と最終稿の完成：15時間</p>		
スケジュール	<p>〈前期〉</p> <ul style="list-style-type: none"> レポート課題1・2 締切：初稿 7月末 最終稿 学事歴で定められた日までに提出する <p>〈後期〉</p> <ul style="list-style-type: none"> レポート課題1・2 締切：初稿 11月末 最終稿 学事歴で定められた日までに提出する 		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	80 %	レポートの内容(構成、論旨、引用文献、独創性)：60% 提出状況(期限の順守、初稿から最終稿までの提出回数と改善度等)：20%
	観察記録	20 %	教師のレポート添削に対する対応等
履修者への要望	<ul style="list-style-type: none"> 学部時代に日本文学を専攻していなくても差し支えないが、江戸時代の文学史の概略に対する理解を求める。 各図書館や資料館等においては古典籍類のデータベース化や画像公開が飛躍的に進んでおり、PCを利用して積極的に閲覧利用されたい。崩し字読解システムも複数公開されており、初心者でもゲーム感覚で取り組めるようになりつつある。 浮世絵を中心とする江戸時代の絵画、歌舞伎・文楽等の古典芸能に親しむ姿勢を養ってもらいたい。展覧会も積極的に観覧してもらいたい。 		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： 著者名：中野三敏監修 教材名： 教材名：『江戸の出版』（ペリかん社，2005年） ISBN:978-4-83-151120-1 3,800円+税
	江戸時代の書物は外形など書誌的特徴が内容のある程度規定するといった意味合いがあり、実際に原本を手にとると、また別の親しみと興味が湧いてくるという楽しみがある。現実として通信制の講義では、そうした場が持ちにくいことも事実だが、本書は出版という営為を通して、刊行物の製作・流通を視野に入れた立体的な文化史を構築することを目指した論集である。
参考図書	長友千代治『江戸時代の図書流通』思文閣出版 2002年，木村八重子『草双紙の世界 江戸の出版文化』ペリかん社，2009年
履修上のポイント	教材はあくまで江戸時代の本屋・出版、流通のありかたや書誌について書かれたもので、具体的な作品については各自で目を通してもらうことになる。文芸評論や作品評価を求めているわけではなく、当時の書物の製作現場や享受といった文化史的な興味を持ってもらえれば幸いである。
レポート課題 1	近世初頭から享保期までの商業出版の変遷について、当時「三都」と称された京都・大坂・江戸の地域的特徴に注目して、三都別に述べなさい。 留意点： 以下の語を必ず含むこと。：嵯峨本・仮名草子・浮世草子・俳書・正本・武鑑 三都の本屋仲間成立と享保七年の「出版条目」発布には必ず触れること。
レポート課題 2	江戸時代における草双紙出版の様相について版元（時本問屋）の動向に注目して述べなさい。 留意点： 以下の語を必ず含むこと。：地本・地本問屋・赤本・黒本・青本・黄表紙・合巻・浮世絵「草双紙」以外の戯作に触れる必要はない。

基本教材 2	
教材の概要	著者名： 高田衛・有働裕・佐伯孝弘編集 教材名： 『西鶴と浮世草子研究 vol.2 怪異』（笠間書院，2007年） ISBN:978-4-30-560202-2 2,500円+税
	江戸時代には仮名草子の時代から絵入りの怪異小説集が多数出版されたことで、人々の想像力を大いに刺激した。その結果類話やパリエーションを数多く生み出した。こうした怪談の豊饒さは小泉八雲のような外国人をも魅了したのである。本書は付録 CD に怪異物挿絵を収録し検索機能を付しており、視覚的に作品理解を助ける構成となっている。
参考図書	東アジア怪異学会編『怪異学入門』岩田書院 2012年，伊藤慎吾編『妖怪・憑依・擬人化の文化史』笠間書院 2016年
履修上のポイント	付録 CD には、底本とした活字翻刻されたテキストを明記しているので、各自が必要に応じて作品を読むことを希望する。
レポート課題 1	西鶴作品の怪談・奇談を最低一話取り上げて、その特質につき自由に論ぜよ。 留意点： 怪談・奇談の範囲は広く解釈して構わない。具体的には『西鶴諸国はなし』や『懐硯』といった雑話物が中心となるだろうが、好色物中の怪異譚を取り上げても差し支えない。
レポート課題 2	西鶴以外の作者による怪談・奇談を最低一話取り上げて、その特質につき自由に論ぜよ。 留意点： 怪談・奇談の範囲は広く解釈してよいが、基本的には CD 収録作品中から選択すること。仮名草子・浮世草子いずれも可。収録作品以外、例えば上田秋成等の初期読本と比較する視点があっても差し支えない。

基本教材 1

第 1 回	江戸の出版 前期概説 古活字版から整版へ
第 2 回	江戸の出版 京都・大坂・江戸 三都の出版の特徴と出版書肆
第 3 回	江戸の出版 享保七年発布「出版条目」とその影響
第 4 回	レポート課題 1 初稿提出
第 5 回	添削
第 6 回	レポート課題 1 第 2 稿提出
第 7 回	添削
第 8 回	レポート課題 1 最終稿提出
第 9 回	江戸の出版 草双紙概説
第 10 回	江戸の出版 書物問屋と地本問屋
第 11 回	レポート課題 2 初稿提出
第 12 回	添削
第 13 回	レポート課題 2 第 2 稿提出
第 14 回	添削
第 15 回	レポート課題 2 最終稿提出

基本教材 2

第 1 回	仮名草子時代の怪異小説
第 2 回	西鶴の怪異小説と諸国の奇談
第 3 回	西鶴作品の影響と他の浮世草子作者
第 4 回	レポート課題 1 初稿提出
第 5 回	添削
第 6 回	レポート課題 1 第 2 稿提出
第 7 回	添削
第 8 回	レポート課題 1 最終稿提出
第 9 回	西鶴以降の浮世草子の怪異小説 概説
第 10 回	近世中期における怪談・奇談の流行
第 11 回	レポート課題 2 初稿提出
第 12 回	添削
第 13 回	レポート課題 2 第 2 稿提出
第 14 回	添削
第 15 回	レポート課題 2 最終稿提出